

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	多摩市鶴牧1-25-2グァイクステージ多摩センター2階
園名	キッズサポート多摩めぐみクラブ

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

氷

<テーマの設定理由>

氷遊びをした際に氷が溶けてなくなると「氷どこ行った?」「氷無くなっちゃったよ。うわーん。」と泣いたり探す姿があった。大人にとっては氷は溶けるのが当たり前でも2歳児クラスの児にとっては不思議で経験のない事なのだと感じ、氷に触れる経験を通して2歳児クラスなりに様々な事を感じたり表現していけたらと氷をテーマとした

### 2. 活動スケジュール

- 1 氷に触れる
- 2 水に触れる
- 3 氷を作る
- 4 氷を観察する
- 5 氷を割ってみる
- 6 様々な氷を作り遊んだり観察する
- 7 色々な温度を体感する（水、氷、ぬるいお湯）
- 8 かき氷機でできた氷に触れる、かき氷パーティーを楽しみにする。）
- 9 かき氷パーティーをして氷を食べた感触、かき氷のおいしさを味わう
- 10 かき氷パーティーの経験からかき氷ごっこを楽しむ
- 11 様々な形の氷でイメージを広げ自由に遊ぶ
- 12 落ち葉や秋の自然物で氷のコラージュをする
- 13 氷でクリスマス飾りを作る
- 14 冬の自然の中で出来た氷、霜柱に触れる

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・冷凍庫を室内に常備していつでも氷を作ったり触れたりできる環境にした。
- ・ブルーシート、タオル、たらいを用意し汚れを気にせず思う存分氷を触った後拭けるようにした。
- ・氷を観察する際氷を置くスペースをつくった。
- ・氷を作る様々な容器を用意した。
- ・絵具、ビーズ、落ち葉や木の実など氷に入れる素材を用意した。
- ・かき氷機手動、電動（リース）
- ・かき氷シロップ（いちご、メロン、レモン）
- ・かき氷用氷、器、スプーン
- ・かき氷ごっこ用スズランテープ、透明カップ
- ・戸外で氷や霜柱に触れる機会を持つようにした。

### 4. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ① 7/4 氷に触れてみる：カップなどで凍らせた氷に触れて遊んだ。。
- ② 7/9 氷になる前の水に触れて性質を感じる。：タライの水を触ったりビニールに入れて触った。  
氷を作り：容器やジップロックに水を入れ、冷凍庫へ入れた。。
- ③ 7/18 作った氷がどうなったか観察した。氷を落としてみた。
- ④ 7/25 7/31 大きな氷に触れ、観察した。  
重さはどうか？触ってみるとどうか？観察すると？時間が経つとどうなるか？
- ⑤ 8/8 絵具を凍らせたもので遊んだ。
- ⑥ 8/19 様々な温度を体感した（ぬるま湯、水、氷）：氷にかけてみた。
- ⑦ 8/22 かき氷機でできた氷に触れた。
- ⑧ 8/23 野菜をいれた氷で遊んだ。滑らせてみた。
- ⑨ 8/28 かき氷パーティーで氷やかき氷を食べ氷を味覚で感じた。
- ⑩ 9/2 ままごとコーナーでかき氷ごっこを楽しんだ。
- ⑪ 9/20 様々な氷で自由に遊んだ。
- ⑫ 11/14 落ち葉や木の実など秋の自然物で氷を作り自由に飾ったり、遊んだ。
- ⑬ 12/20 散歩へ行き、冬の自然でできた氷、霜柱に触れた。
- ⑭ 12/24 氷でクリスマス飾りを作った。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ① 初めて氷に触れると興味を示し積極的に手にしては「冷たい。」と言ったり、タライや水の中に手を入れて遊んだ。冷たい感触に敏感な児は少しふれては手を引っ込めていた。氷を入れるカップを渡すと氷を入れて持つことができた。YさんとTさんは氷に水をかけ小さくなる様子をじっと観察していた。やがて氷が溶けてなくなると「氷どこいった?」「氷無くなっちゃったよ。」と周りをキョロキョロ探し不思議そうにし、Tさんは泣き出してしまった。氷は溶けるという認識は子ども達にはない様子。保育者は「氷どこに行っちゃったのかな?」と子どもの疑問に答えてしまわず一緒に疑問に共感しながら様子を見た。
- ② 水に触れると「冷たいね。」といていた。保育者が「お水捕まえられるかな?」と聞くと「捕まえられないね。」といていた為ビニール袋を渡すとビニールに水を入れ「捕まえたよ。」といいながらビニールの上から水の柔らかい感触を味わっていた。そのうちにビニールに穴が開きびゅーと水が吹き出ると「わはは〜。」と笑ったり、出てきた水の下に器を持ってきて水をキャッチしていた。その後ジップロックに水を入れたものを冷凍庫へ入れた。冷凍庫の空気に「冷たいね。」とTさん。「氷できるかな?」と楽しみな様子であった。
- ③ 冷凍庫から氷を取り出し手に持つとジップロックに入れて柔らかかった水が固くなっていることに驚き「カチカチになってる。」と言っていた。色々な容器から氷を取り出すとすぐに手に持ちたくて我先にと氷を持って行った。小さな氷は「ジュースにいれたことある。」「お家にもあるよ。」とカップに入れてジュース屋さんごっこが始まった。氷を割るという発想はまだなかったようなので保育者が見本で上から床に落とし氷が割れる様子を見せてみた。それを見ると子ども達も次々と氷を床に落として割り始めた。パリンと良い音がすると、割れて氷の形が変化するのが楽しく「氷が沢山になったよ。」と言って割れた氷を集めたり上手く割れないと足で踏んで割っていた。
- ④ 大きな氷を見ると驚き「1人で持てみたい。」と持てみたい児が集まった。持てみると「重い。」「1人で持てたよ。」と嬉しそうな様子。トレーに出すと皆手を伸ばし氷を触り「つるつる。」「冷たい。」と言っていた。氷を空にかざすと「お空が見えるね。」「なんか白いのがあるよ。」と言っていた。氷をしばらくの間トレーの上において置き時間が経過するとどうなるか観察した。おやつ後に氷を見てみると「氷小さくなって。」「お水がいっぱい。」とトレーにたまった溶けた水を不思議そうにパシャパシャと触っている。「お水冷たい。」と何度もトレーの溶けた水を障りその後近くの水道で手を洗うということに触っていた児数名が繰り返し行っていた。保育者が「何で手を洗うの?タオルで拭けばいいのに。」と尋ねるとTさんは「だって冷たいんだもん。」と答えた。子ども達は氷水よりも水道水の方が温かいということを体感して手を温めようと行動を起こしていた。Yさんが「氷の中に何入ってるのかな?」と不思議そうにするとFさんは「チクチクが入ってるの。」Kさんは「冷凍庫に入ってるバルバ。」「白い氷が

赤ちゃんの仲間なんだよ。」と答えていた。違う日に氷を観察した際に保育者が「氷はどこへ行っちゃったの？」と尋ねるとKさんは「熊さんが氷食べちゃった。」「粘土の中に入っちゃった。」と答えた。氷が好きで家庭でも氷遊びを楽しんでいたYさんは「溶けちゃったんだよ。」と初めて溶けたという言葉での表現をした。

⑤絵の具を凍らせたものと大きな紙をみると「やりたい。」と手に取る。「冷たい。」「気持ちいい。」と感触を楽しみながら描きをし「だんだん小さくなっちゃう。」と気づくとそっと描いていた。「はやく描かないとなくなっちゃう。」とダイナミックになり最後は手の平で絵の具を混ぜ感触を楽しんでいた。

⑥ぬるいお湯（40℃位）に触れると「あっちいー。」「お風呂みたい。」と言って気持ちよさそうに手を温めていた。その後水に触れると「冷たい。」と言っていた。次に氷に触れると「キャー冷たい。」といい氷に水やぬるま湯をせつせとかけはじめた。氷の形が変わってきてへこんでくるとFさんは手の平をその部分において確かめていた。Rさんは「トンネルだよ。」と真ん中がなくなった氷を立ててイメージを楽しんだ。Kさんは「おーい。」と向こう側の景色を見ていた。最後に保育者が熱いお湯を氷にかけ手氷がどうなるか見てみた。氷がじゅわじゅわと溶けていく様子を真剣に見ていた。その後溶けた水を見たYさんが「これも氷の仲間だよね。」とつぶやいた。

⑦かき氷機をみて「おじいちゃん家にあったよ。」「お祭りで食べた。」と知っている児が多くいた。保育者がかき氷機で氷を作ると、氷が出てくるのをじっと観察していた。保育者が「今日は食べないよ。」と話をしてからできた氷を見せると皆がわっと手を伸ばし水をわしづかみして持って行った。「つめたい。」「さらさら。」と言って触っているのも束の間ですぐに水を入れてしまう。普段の氷と違いすぐに溶けてしまい「もっと氷頂戴。」ともらいに来ていた。Yさん、Tさんは「かき氷早く食べたい。」と楽しみにしていた。

⑧野菜の入った氷を見て何とか中の野菜を取り出そうと触っていた。タライの中の水に氷を入れているうちに中の野菜が出てくると「野菜スープでーす。」と水を混ぜカップに移して「どうぞ。」と保育者にごちそうしてくれた。カップの中や机の上で氷を滑らせることを繰り返し楽しむ児が多くいた。

⑨園庭でかき氷パーティーを行った。のれんや氷の文字テーブル等で楽しい雰囲気づくりを工夫した為子ども達も喜んでいた。この日は電動かき氷機をレンタルした為まずは電動かき氷機で出来た氷の感触に触れてみた。「さらさら。」「雪みたいだね。」と言っていた。次は氷のみで食べてみた。かき氷よりも氷そのものの冷たさがダイレクトに伝わり口にするると眉を顰め、顔全体で冷たさを表現していた。次に好きな味のシロップをかけて食べた。「いちごにする。」「全部かける。」とその子によって好みが分かれた。Tさんは「全部かけたらコーヒーのかき氷になっちゃったんだよ。」と茶色になったかき氷を見て言った。かき氷自体を食べるのが初めてだった児も数名いたが、「冷たくておいしい。」「あまい。」と楽しく味覚で氷を味わうことができた。

⑩ままごとコーナーにカラフルなスズランテープ、透明カップを用意しかき氷ごっこを行った。お店屋さんのように「いらっしゃいませ。なに味がいいですか？」と保育者や友達とやりとりをしながら賑やかにテーブルを囲んでいた。かき氷を食べた経験から「シロップかけなきゃ。」とペットボトルをもってかける真似をしたり、自分が食べた味を覚えていてKさんは「レモン味がいいの。」「冷たすぎて頭がキーンってなるの。」と眉間を抑える仕草をした。

⑪大きさや形色々な氷を沢山だし、子ども達がどの様に遊ぶか観察した。Yさんは氷を積み重ねて「見てみて、ミッキーだよ。」「電車だよ。これはパトカーだよ。」と滑らせてイメージを楽しんだ。そこへKさんが加わると氷でケーキを作り「ハッピーバースデイトゥユー」と2人で楽しく歌い「おめでとー。」「ふー。」と誕生日ごっこで盛り上がった。

⑫散歩で集めた秋の自然物（どんぐり、枝、イチョウ、モミジ等）で氷を作り飾った。まず氷作りでは容器から溢れるほどどんぐりなどを詰め込む姿があった。出来た氷を見ると「わー。どんぐりいっぱい凍ってる。」「取れないね。」と驚きながらも氷に触っていた。季節が11月ということもあり、「つめたい。」「さむい。」と氷に触っては手を放す姿があった。氷を重ねたり飾り付けたものを戸外のテーブルに飾った。夕方溶けてきた氷を見て「どんぐりとれたよ。」と氷からどんぐりを取り出して遊んでいた。

⑬散歩先で霜柱を見つけるとサクサクと踏みつけて音を楽しんでいた。そのうち「持って帰りたい。」とKさんTさんが霜柱をビニール制のお散歩バッグの中へ入れた。かなり泥がついていたが保育者はその様子を見守った。おやつ後泥だらけになった袋を見て「あれ?」「どろんこだ。」と不思議そうにしていた。

池に大きな氷が張っていたのを保育者が取ってくると「わー、大きい。」と驚き地面に置くと子ども達がわーと集まり足で踏みつけて割り始めた。保育者が「どうして冷凍庫ないのに凍ったんだろうね?」と聞くとTさんKさんは「寒いからだよ。」「冬だから。」と答えた。

⑭クリスマスイブ、氷でクリスマス飾りを作った。イメージを広げながら氷を重ねて「ケーキだよ。」さらにひいらぎの葉、松ぼっくり、赤い木の実。リボン。星形などを飾りクリスマスパーティーごっこを楽しんだ。出来上がった氷の飾りを並べると「きれいだね。」と眺めてクリスマスソングを歌って楽しんでいた。



## 5 <振り返りによって得た先生の気づき>

・氷は溶けると言う事をはじめはわからず不思議がっていたが氷に触れる活動を重ねていくうちに理解できるようになった。はじめは「なくなった。」「小さくなった。」と言う言葉で表現していたのが自然と「溶けた。」と言うようになった。

・氷は冷たいという感覚を肌で感じ、そこから比べて水やぬるま湯、外気温など様々な温度を体感し感じる事ができた。特に氷水を触った後に水道水で手を洗いに行く(水で手を温める)姿には保育者も驚き感動した。また、かき氷パーティーでは氷の冷たさを味覚で味わうことができ、楽しさとおいしさから子どもたちにとっても印象深い経験となった。その後も遊びの中でかき氷ごっこをし、自分の食べた味の話をして思い出して遊びが盛り上がった。

・子どもが興味関心を示したり不思議そうにしていたらその姿を汲み取り、他児にも「これは何だろう?」「どうしてだと思う?」と問いかけてみた。そうすることで今の2歳児クラスの子どもの言葉の表現、イメージで思いもよらぬ返答がたくさん返ってきた。この年齢に非常に適したテーマであったと実感した。氷という形が自由に変化し、日常的にありそうでない物をテーマにしてこの年齢ならではの新たな発見を沢山することができたのでとても良い経験となった。

・沢山の氷の探究活動を経験したことから、日常のなかで冬の自然の中にある霜柱や氷に興味関心を示し、氷は冷たい、寒いから凍る、冬は寒いというように理解が深まり、夏だけでなく継続した探究活動をおこなうことができた。

・この探究活動を行い子ども達の自由な発想力、反応に保育者自身が驚き心温かく感動し、楽しみながら活動することができ、子どもの可能を無限に感じる事ができた。